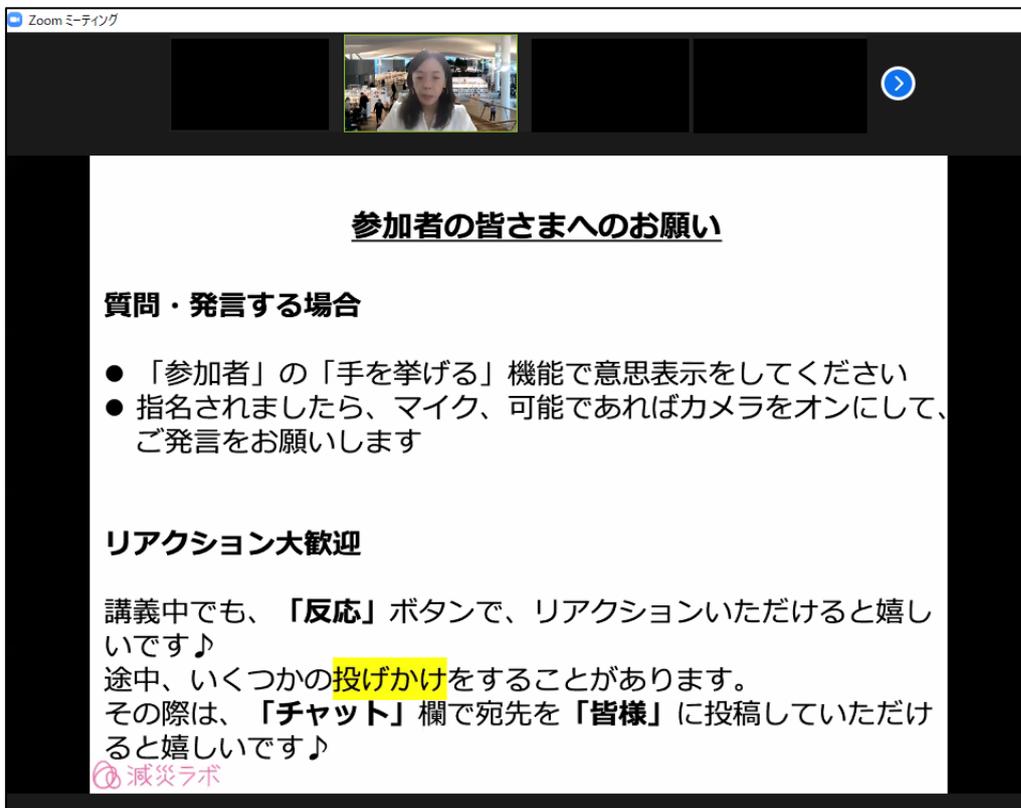


令和 2 年度国立大学図書館協会地区協会助成事業 研修報告

テーマ	その時、図書館はどうなるか？my 図書館 DIG を実践するための視点を学ぶ
事業目的・趣旨	<p>近年、全国各地で発生している大規模災害により図書館も甚大な被害を受けており、大学図書館において災害対応は喫緊の課題となっている。本セミナーでは、被災時対応について図上訓練の手法を学ぶことにより、災害リスクを可視化・共有する方法を取得し、各図書館における防災機能向上に寄与する。また、コロナ禍の情勢を鑑みて web 開催とし、事後にアンケートを実施する。</p> <p>本事業は、国大図協ビジョン 2020 における重点領域 3 「新しい人材」の目標 2 「国立大学図書館職員の資質向上」に寄与することを視野に入れ、成果の一部については公表する予定である。</p>
実施内容 (実施日、会場、参加者数等)	<p>本事業は、九州地区国立大学図書館協会会員館の職員研修ワーキンググループが中心となって企画し、コロナ禍を鑑みて web 開催とした。</p> <p>・開催概要</p> <p>日時：令和 2 年 12 月 8 日（火）14：00～15：30</p> <p>主催：九州地区国立大学図書館協会</p> <p>後援：九州地区大学図書館協議会</p> <p>講師：一般社団法人減災ラボ 代表取締役 鈴木光氏</p> <p>内容：web 講演</p> <p>参加申込者：76 名（内 2 名 不参加の連絡あり）</p>

当日の状況（zoom 画面・受講風景）

- ・最初に受講にあたって注意事項がアナウンスされた



Zoom ミーティング

参加者の皆さまへのお願い

質問・発言する場合

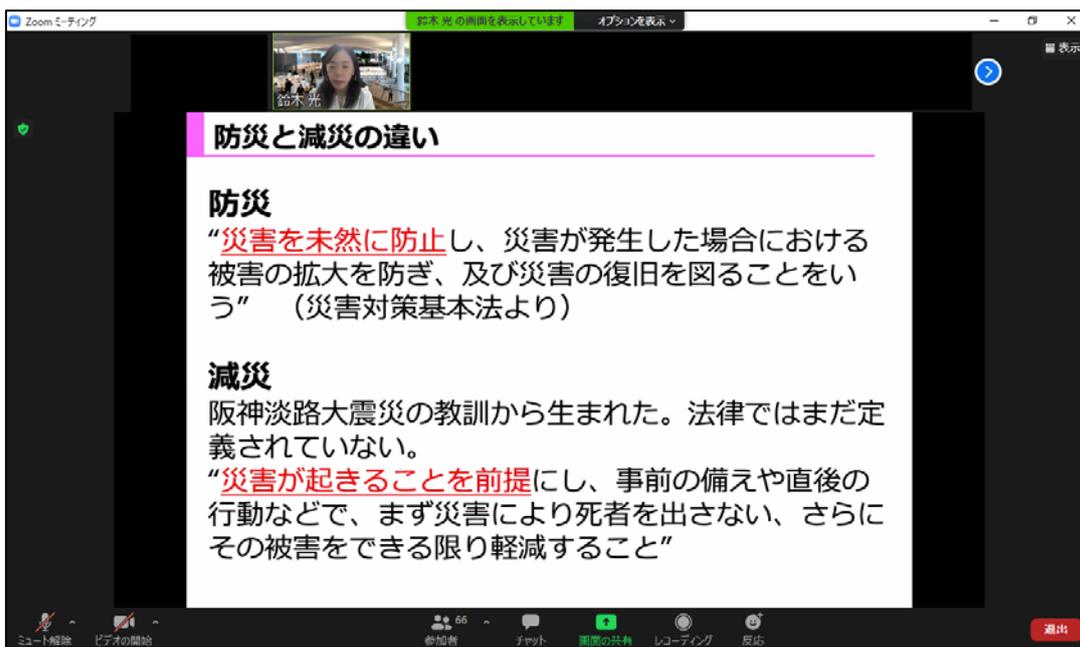
- 「参加者」の「手を挙げる」機能で意思表示をしてください
- 指名されましたら、マイク、可能であればカメラをオンにして、ご発言をお願いします

リアクション大歓迎

講義中でも、「反応」ボタンで、リアクションいただけると嬉しいです♪
途中、いくつかの投げかけをすることがあります。
その際は、「チャット」欄で宛先を「皆様」に投稿していただくと嬉しいです♪

減災ラボ

- ・ 減災と防災の違いについて説明



Zoom ミーティング

防災と減災の違い

防災

“**災害を未然に防止**し、災害が発生した場合における被害の拡大を防ぎ、及び災害の復旧を図ることをいう”（災害対策基本法より）

減災

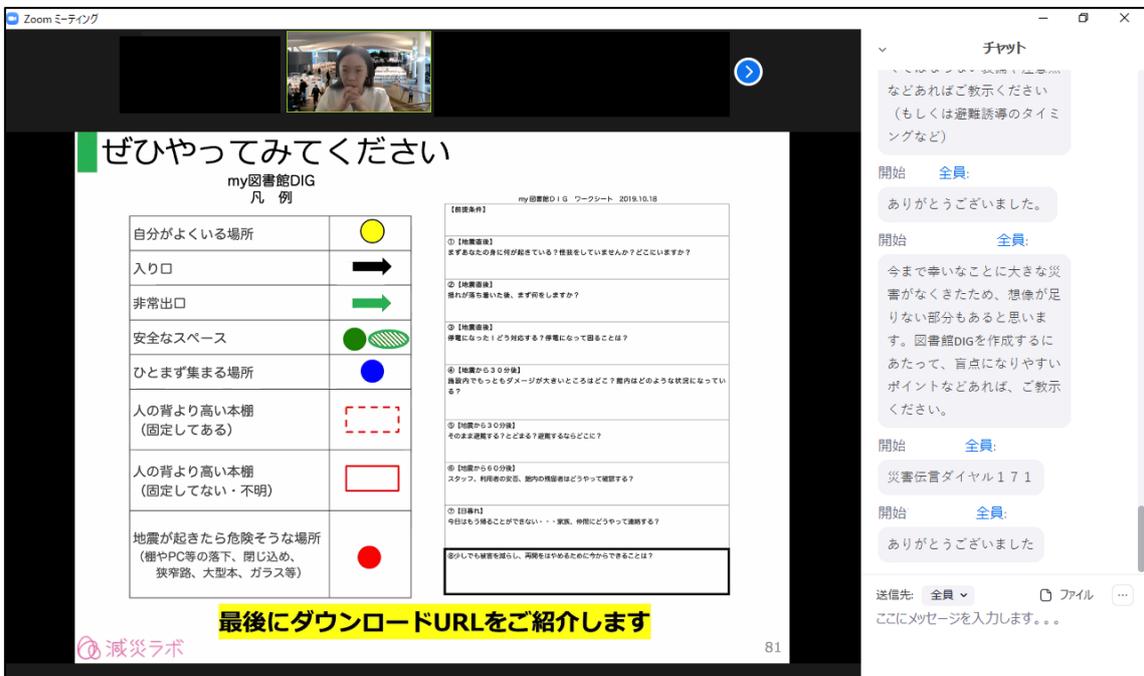
阪神淡路大震災の教訓から生まれた。法律ではまだ定義されていない。
“**災害が起きることを前提**にし、事前の備えや直後の行動などで、まず災害により死者を出さない、さらにその被害をできる限り軽減すること”

ミュート解除 ビデオの開始 参加者 66 チャット 画面の共有 レコーディング 反応 退出

・実際にワークショップで作成された my 図書館 DIG の紹介



・研修の最後にはチャットによる質疑応答も活発に行われた



参加者にはワークシートも配布され、各館での図上訓練へ役立てもらうきっかけとなった

・プロジェクターを利用して図書館全体で受講している図



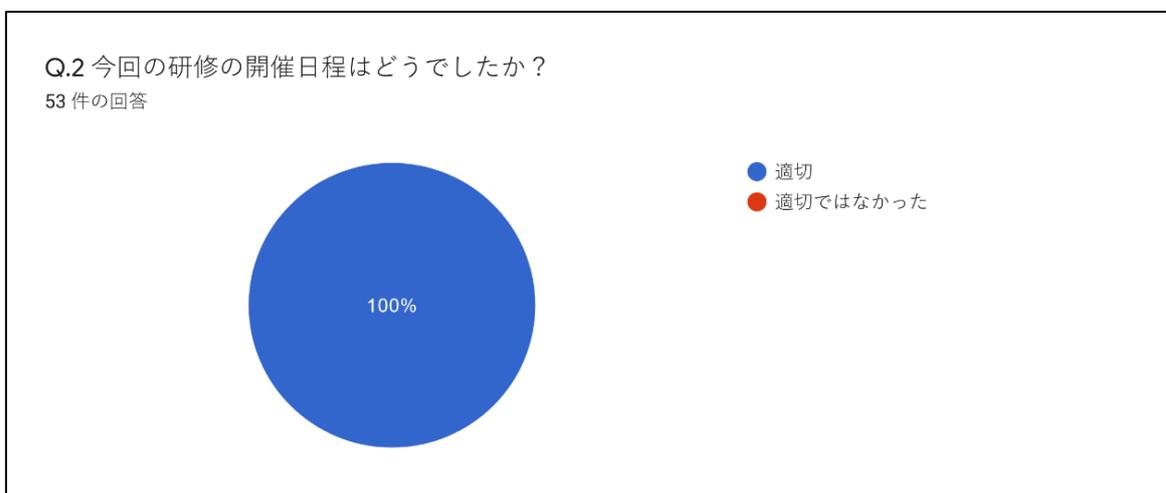
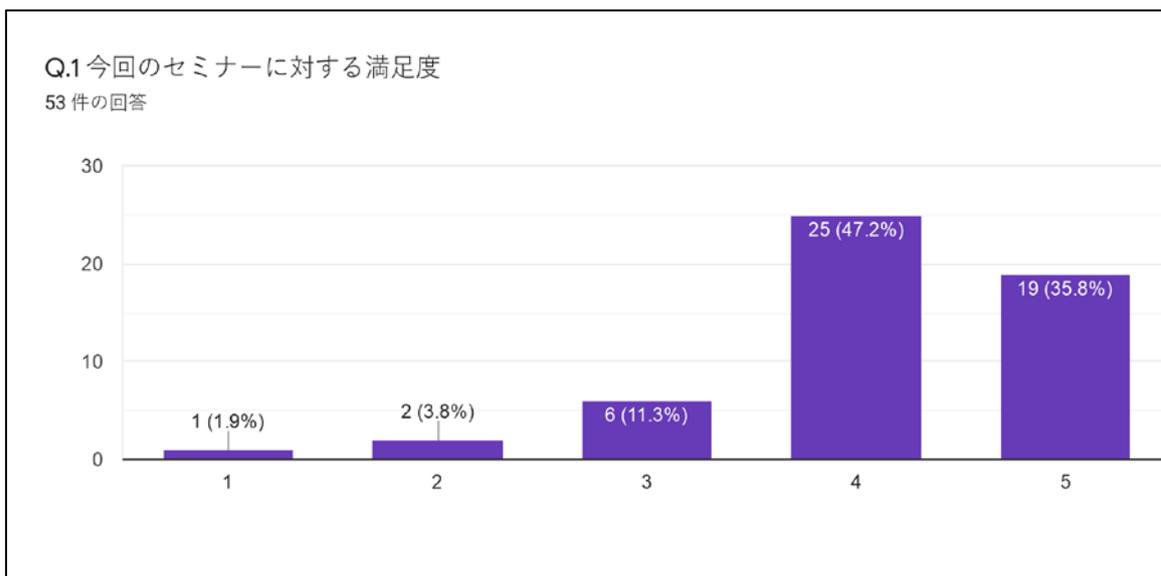
※コロナ対策のため、常時換気を行い座席は間を開けて利用

令和2年度「図書館の災害時対応に関するセミナー」事後アンケート集計結果

開催日：令和2年12月8日（web開催）

参加申込者：76名（内2名不参加の連絡あり）

回答者：53名



Q.3 今回の研修の開催時間帯はどうでしたか？

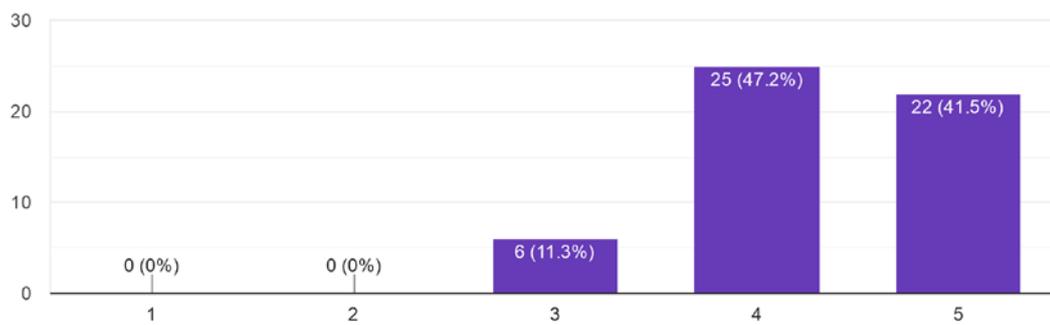
53件の回答



- 適切
- 適切ではなかった

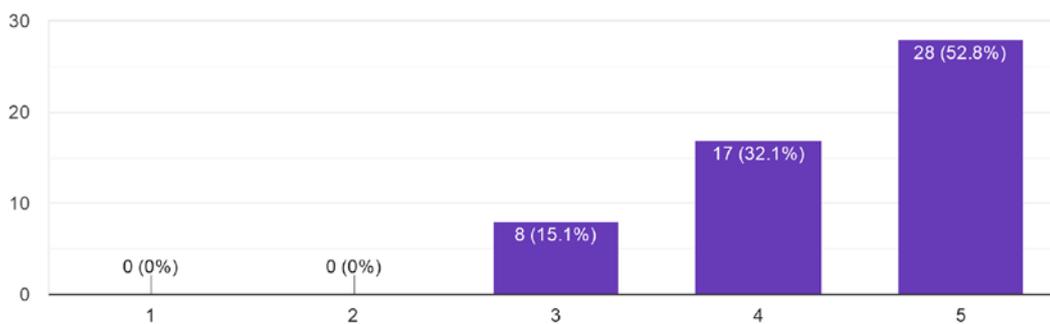
Q.4 「my図書館DIG」を実践するための視点は理解できましたか？

53件の回答



Q.5 講義をきっかけに、今後「my図書館DIG」を行ってみたいと思いましたか？

53件の回答



Q.6 研修がオンライン（Web 上）で行われたことでよかった点、または改善してほしい点
(赤文字はご意見・改善点)

<p>マイクの一律ミュート設定は、開始時から設定されていた方がよかったのではないかと思います。</p>
<p>受講者全員を初めからミュートにしても問題なかったかと思います。</p>
<p>全員ミュートが難しいようでしたので、主催者側で強制的にミュートにしてもよいのでは、と思いました。</p>
<p>館内スタッフの多くが参加することができた</p>
<p>主催者側で参加者のビデオとマイクをオフにしておいた方がよいと思います。</p>
<p>業務の合間に参加できた</p>
<p>自席から参加できてよかった。</p>
<p>Web 上で仕方ないことですが、本来、どこかの会場（図書館等）で各自が危険な場所と安全な場所を確認し、避難経路を提案し合うような実習があれば良かったと思います。Web で良かった点は、通常 1 名しか派遣できないが、2 名の参加が可能となった。</p>
<p>オンラインでの実施のおかげで参加しやすかったです。他の参加者の声がしばしば入ってしまっていたので、ホスト側で早めにミュートをしていただけたら良かったと思います。</p>
<p>遠方で開催される研修にはなかなか参加できませんが、Web 開催のおかげで大変有益な研修を受けることができました。企画を担当された皆様に感謝しております。</p> <p>一方で、Web 開催ですとどうしてもワークショップなどは難しいですが、今回は講師の鈴木先生のおかげで資料のご提供と実施のポイントのご教示があり、ぜひ取り組んでみたいと思いました。工夫次第で何とかなるものだな、とも感じました。</p>
<p>同一館から複数の職員が参加できるので、Web 開催は有難い。半面、他館の方々と気軽に情報共有できない点は、対面に比べると物足りないですが、致し方ないことと思います。</p>
<p>今回の研修では動画をたびたび拝見することとなりましたが、画面上で見れたことでより理解が進んだように重います。</p> <p>改善してほしい点として、他の参加者の声が交じってしまったことが気になりました。講義中もミュートすべき旨、適宜周知していただけると良かったように思いました。</p>
<p>ZOOM が不慣れなので、音声回線とビデオ回線をミュートに強制的にしてほしかったです。もし、手が滑ったと思うと怖かったです。</p> <p>水害や不審者対応についても少し聞けて良かったです。</p> <p>災害について定期的に考えること、具体的に想像することの大切さを学びました。</p> <p>昨日火災報知器が誤作動で鳴りましたが、だれも避難行動に動いているようには見えませんでした。あのビデオの大人の動かない様子と同じだと思いました。今後は、安全を過信せずに行動しようと思いました。</p>
<p>鈴木講師、司会以外の音声は早めに消音もしくは、該当者に注意を促したほうが良いかと思いました。</p>
<p>集合形式と比べると気軽に参加できる点が良かったです。</p>
<p>リマインダをいただけたことが良かったと思います。</p>

<p>非常勤でも参加しやすい点がありがたいです。気になったことは、講演者以外の音声への対応で、主催者側の方に即時対応していただけたらと思いましたが(講師の方に申し訳なかったため)。</p>
<p>減災という概念がわかってよかったです。</p>
<p>良かった点:遠方からでも参加できた 改善点:今回のような講義形式なら、ウェビナーとして開催した方が良かったのでは(参加者側でミュートを解除したりしないように)</p>
<p>移動時間が不要だったことは良かったです。皆で実習したり、他館の人とざっくばらんな情報交換ができなかったことは残念でした。</p>
<p>出張の場合に必要な移動時間を、図書館業務に使うことができたので良かったです。</p>
<p>おさらいがしたいので再放送見れますか？</p>
<p>根拠を持って災害を恐れることが大切であることを教えていただき、危機管理を考えるうえでよい機会となった。</p>
<p>申し込みは1名でしたが、複数名(4名)で和やかに意見を交わしながらセミナーを受けることができました。ミュート設定は怖いと思いました。</p>
<p>全国どこでも参加できたのは、良かったが、やはりワークショップをやってこそ、生きる内容だと思った。あとは、それぞれの大学でワークショップ(仕事)ができるかどうかは、受講者の課題だと思いました。</p>
<p>Q.1を不満にしたのは大変興味深く今後重要になるテーマであったので、Web上ではなく実際に講師の方や他大学の皆様の生の声で意見を聴いてみたかった為です。</p>
<p>悪いのはコロナウイルスであり、講師の方や運営の皆様に不満があったわけではありません。今回のセミナーをきっかけにして九州管内の大学図書館やそれ以外の地域の災害時対応について意見交換や地域の特色を生かした災害対策の情報共有ができると今後のために生かせるのではないかと思います。</p>
<p>オンラインはシームレスに参加でき、参加調整も行いやすいため大変良いと感じています。</p>
<p>参加する機会が増えたことはよかったです。</p>
<p>Web上ではありましたが、対面方式でお話しが聞き易く進行もスムーズでした。ただ、あまり慣れていなかったのも思っていたことがすぐに回答できず後手に回り、意思疎通が図れなかったことが残念です。</p>
<p>会場まで足を運ばず参加でき、参加しやすかった。講師がZoomの反応ボタンやチャット機能を案内し、質問しやすい空気をつくってくださり、双方向のコミュニケーションができていた。</p>
<p>録画、後日公開などしていただけると当日視聴できなかった方も視聴できるのではないのでしょうか。</p>
<p>出張を伴わず気軽に受講できる点が良いと思います。</p>
<p>遠隔地から気軽に参加できたのでよかったです。事前に講演のレジュメ等を配布してもらおうと思う。</p>
<p>最初からホストで参加者全員強制ミュートにしたらどうか？</p>
<p>子育て中の身では研修参加自体が難しいうえに、地方だとなおさらタイトルだけ見てあきらめる事が多かったのも、オンラインで参加できてよかったです。</p>

セミナーがオンラインで開催されたため参加しやすく、貴重なご講演と情報を頂くことができました。ありがとうございました。

参加のハードルが下がるのは非常に助かる。(他の参加者から多く言及されているかと思うが)参加者のマイクはデフォルトでミュートにしておき、最後の質疑応答のときに設定を解除、とする方がホスト側もスムーズに進行できそう。

開催地へ直接出向く必要はなく、時間、労力の省略化ができて気安く参加できるため良かったと思います。ただ仕事の電話対応が入ってきて視聴を中断し、環境を完全にシャットアウトできない点がありました。

移動時間を気にせず、自席で参加できてよかったです。

Zoomに接続した際に、(おそらく)デフォルトでマイクがONの状態になっていることが気になりました(接続後すぐにミュート設定必須)。そのあたり、あらかじめ参加者に周知できていたらよかったかもしれません(途中参加の方の声が度々入っていましたので...)

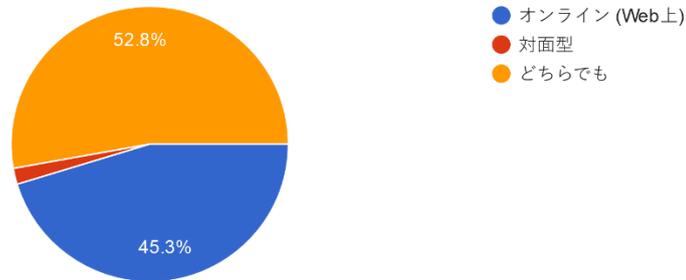
遠くの大学の方との情報交換の機会になったり、在宅勤務でも有用な情報が入手でき、良かった。実際のワークができないが、職場に持ち帰って行うこともできるので、オンラインでも良いと思った。

対面では遠方で参加が困難だったセミナーに参加できるメリットは大きいと思いました。

初めて九州地区の研修に参加しました。興味のあるテーマに開催地に関わらず参加できるのがオンラインの良い点だと思います。チャットでのやり取りもわかりやすかったです。

Q.7 今後の研修の実施形式について、"オンライン"と"対面型"どちらを希望しますか？

53 件の回答



オンライン：24名

対面型：1名

どちらでも：28名

Q.8 Q7の理由をお書きください。

【Q7で"オンライン (Web上)"を選択】

出張などの手間がなく、業務の合間に受講できるので。

対面型になると出張扱いとなり、参加が難しくなるため。

質問がしやすいから

出席しやすい

現場に行かずとも参加できるから。

対面研修は参加できません。オンラインで YouTube 期間限定公開でお願いいたします。

コロナ感染予防と、移動等の時間短縮になるため

遠隔地開催により、通常は参加できない貴重な講義を、拝聴することができるから

遠方の開催でも、また数時間の有休でも、参加しやすいため

スムーズに参加できるから

対面型のセミナーでは、質疑応答の質問がよく聞こえないこともありますが、チャットにより質問内容が容易に確認できるので、理解がスムーズでした。

時間の制約が少ないため

仕事をしながら都合をつけて講演に参加しているので、Web上のほうが日程を組み込みやすいからです。

対面型だと受講者がある程度限定されるため。

受講機会が増えるため

対面型の場合、遠隔地からの参加がしにくいいため。

場所や時間、移動時間を気にしないで受講できる。

業務上の都合により会場へ行くことが難しいため。

オンラインが受講しやすいです。

1. オンラインでの会議、ウェビナーは日常的に参加しているため慣れている。
2. 配属部署の人員が少なく、研修のために出張しづらい。時間と場所の制約なく受講できるのはとても助かる。
効率化の面で選択します。
参加しやすいからです。

【Q7 で”対面型”を選択】

実際に自分の図書館の館内図を使ってセミナー中に作業を試みたかったです。

【Q7 で”どちらでも”を選択】

どちらにも良さがあるため。
参加しやすいということでは、オンラインですが、グループワークが難しいということも感じました。
講義形式ならオンラインを希望するが、ワークショップや実習を含む場合は対面を希望する。
遠方開催の場合オンラインは大変有効だが、ワークショップ形式の研修は対面式がよいと思われるため、両者各々にメリットがあると思います。
オンラインは広く浅く多数が視聴できる。対面型は限られた人数となるため深く研修ができると思う。従って、両方に利点があるため。
研修会場でワークシートに取り組みたいという気持ちもあるので、対面型での実施も希望します。
オンライン、対面型、どちらも一長一短はあると思います。良いところ取りでハイブリッド開催ができれば一番いいのですが・・・。
Q6 の通り、両方に良い面とマイナス面があるため。
オンラインでは、講義資料を拡大しながら見ることができ、目に優しいと感じます。一方で対面型であれば、ワークショップ等コミュニケーションをとりながら研修を進めることが可能です。よって、それぞれの利点が活かせるなら、いずれも希望する次第です。
ワークショップはまだ対面式でないと難しいが、オンラインの利点も活用して行ってほしい。
情勢や内容によると思います。実施を続けることが重要だと思います。
オンラインは遠くでも参加しやすいけれども、対面型にも良さがあると思います。
対面型での場合、受講者同士の情報共有ができること、オンラインは参加しやすい利点があるため。
オンラインでも情報共有は十分可能であると感じられましたが、災害時対応がテーマであることから、対面型にすることでより詳細な情報交換となるならば、そちらとしても参加してみたいと思いました。
それぞれ、内容によって適切な形式が良いと思います。

オンラインは参加しやすさがありますが、対面での良さもありますので研修内容に合わせて開催していただくと大変ありがたいなと思っております。
オンラインは広く多くの方の参加が可能となり、対面では受講中の雰囲気があり、グループワークなどで直接意見交換が可能となる。
Web上のほうが気軽に参加できるのは利点であると思います。
出張できない時期はオンラインが助かりますし、ワークショップは対面が効果的なのだろうと思います。両方の設定がなされて選択できれば参加しやすくなると思います。
どちらもメリットとデメリットがあり、今後は両方から選べる研修が主流になると思われるから。対面のほうがやりやすいこともあるし、伝わるものがあるから。でもオンライン型も両方併用のほうが、地方で開催されても参加できてありがたいです。
オンラインだと参加はしやすいですが、ワークショップが難しいので、現地組+オンライン組参加の講演と現地組参加のワークショップを組み合わせられると満足度が高い気がします。
ハンズオンだからこそできること(例えばマップの作成)があると思います。基本は対面にしておき、座学部分はオンラインでもOKですと、両方のメリットが生かせるように思いました。

Q.9 今後開催してほしい研修（のテーマ）がありましたらお教えてください

図書館の利用者を増やすためには...について
特に迷惑利用者や不審者に絞った危機管理
図書館業務のオンライン化について
本日の質問に出ていたが、不審者への対策は各館が苦勞していると思う。
防犯対応に関するセミナー
自然災害だけではなく、様々な「危機管理」についてお願いしたいです。
水損や、カビ等の汚損資料の修復、保存、その他の対策について。
今回の研修にて、災害時の SNS 等での情報発信について気になりました(が、時間が間に合わず質問はできませんでした)。
災害時に限らず、SNS 等の活用事例や SNS でのアウトリーチ活動の効果・意義などを知ることができる研修がありますと嬉しく思います。
図書館のカビ害虫対策。具体的に即効性のある用品とともに。
今回のテーマはとてもためになったので、この続編(あるいは再度)でも良いと思います。災害時対応は正直なところ組織によってばらつきがあるため、あまり熱心でない図書館に勤めているが内心関心を持っている方々が聴く機会となれば良いなと思います。
各館のスキルアップのテーマがあったらそれをやってほしいです。
図書館の不審者(防犯)対策
文化財レスキューとか？
各図書館での危機管理対策の紹介
来館と疫病対策
ちょっと思い浮かびませんでした。どこかの大学が言っていた「不審者対策」なんかも必要なテーマではないかと思いました。
図書館における障がい者対応について
図書展示方法やポスター作成・掲示など、利用促進のための活用術について
図書館の感染症対策
災害のセミナーは定期的にやることで記憶が保てると思います。
コロナ禍における電子書籍の利用状況について
コロナ禍における図書館の対応について(来年は unnecessary テーマかもしれませんが)
今回が図書館と利用者の災害対策だったので、資料の災害対策
コロナ禍を受けて変化していく図書館や著作権、オンライン授業の権利関係などを扱ってほしいです。

Q.10 全体を通してのご意見・ご感想

(赤文字はご意見・改善点)

とても有意義なセミナーでした。この状況で準備等大変だったかと思いますが、開催していただいたことに感謝いたします。
とてもためになった。一度防災、減災について本気で考えるべきだと思った。
大変有意義な企画をありがとうございました。
多くの災害が起こっている現状で、今後のことを考える上で大変参考になりました。ありがとうございました。
前の質問にも回答しましたが、Web 上であったため、本来参加できない者も参加できたため、とても難かった。
講師の鈴木先生はじめ、企画してくださった関係者のみなさまに感謝申し上げます。
災害について考える良いきっかけとなりましたので、同じテーマのセミナーは定期的実施されるとよいと思いました。講師の皆様、セミナーご担当の皆様、本当にありがとうございました。
本日は公務のため途中で退室させていただきました。ありがとうございました。
My 図書館 DIG など、新しい知見を得ることができました。災害については、どの地域でも平等に気を点けねばならないため、大変参考になりました。ありがとうございました。
終盤にかけて大変わかりやすく参考になりました。質問コーナーもわかりやすかったです。ありがとうございました。
「正しく敵を知り、正しく恐れる」、災害だけにとどまらず、すべてにおいて必要なことだと思います。リスクを認知し、対応・改善を考えていこうと思いました。貴重な情報を共有させていただきありがとうございました。
お世話になりました。ありがとうございました。
とても有益なお話でした。ありがとうございます。全体的に危機管理意識が低い傾向にあると思いますので、多くにとって有意義な内容だと思います。
このセミナーに参加できて本当によかったです。
オンラインのおかげで他地区のセミナーに初めて参加することができました。今後は地区を越えた連携もやっていけたら良いと思います。
調整、準備をしていただいた皆様、たいへんありがとうございました。
図書館における災害時対応について、大変参考になりました。ありがとうございました。
大変参考になりました。ありがとうございました。
災害リスクの可視化を行うことの大切さ、利用者にとって安心・安全な図書館の在り方を考えさせられる良い機会となりました。ありがとうございました。
災害対応は、記録を残しても一度きりのものとなってしまうがちなので、状況の可視化とそれを踏まえた改善までのサイクルが明示されたと思います。企画開催ありがとうございました。
大変ためになるセミナーでした。ありがとうございました。

オンライン開催であったため業務の合間に参加することができ、勉強になりました。ありがとうございました。

お世話になりました。

問題が起こっていない時期に対策を練る必要があることを実感いたしました。予算を確保する必要がある対策については、具体的な災害が起きていない時に、経営サイドに予防措置の必要性を納得させることが難しい、と常々感じています。まずは、図書館内にある資源でできることを考えようと思いますが、防災に関する予算確保の良い知恵がありましたら、ご教示いただきたい、と希望いたします。

とても有意義な時間となりました。ありがとうございました。

ノウハウがあまりない中でのオンライン研修のご準備大変だったかと思いますが、進行もスムーズで動画も活用されていたりとたいへん満足感の高い内容でした。ありがとうございます。

災害について想像力を働かせ、リスクを可視化して日ごろから備えておく必要があることの認識ができました。参考になりました。スタッフの皆様、お疲れさまでした。

日頃から災害を想定して勤務をする必要があると感じました。

最初から、主催者側で全員ミュートに設定して良いと思います。

災害時に特に困るのは食事とトイレ、という言葉が印象的だった。自宅だとライフラインが途切れ、孤立してしまった事態への備えもできている(つもり)が、職場だとそこまで考えが至っていないことに気が付いた。

貴重なセミナーを開催いただきありがとうございました。

zoom 参加時の名前表記ガイド(大学名・氏名など)あればわかりやすかったかもしれません。

オンラインで開催していただいたおかげで他地区の研修に参加できました。ありがとうございました。熊本地震や豪雨災害の続いた九州地区での開催でしたので、経験談のようなものも聞けるかと思いましたが、登壇者のお話で終始したのは少し残念でした。それぞれで DIG の成果物を報告しあえるといいですね。